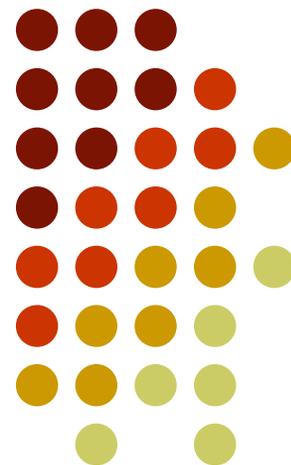


# 近畿外来小児科学研究グループの ムンプス難聴頻度調査

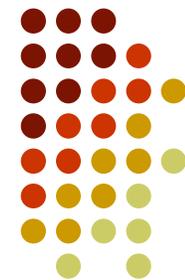
近畿外来小児科学研究グループ (KAPSG)  
橋本裕美 (橋本こどもクリニック)

第109回日本小児科学会学術集会 (金沢) 2006年4月23日  
分野別WS7 外来小児科での共同研究



# ムンプス難聴の発生頻度調査

—ムンプス後の難聴は小児科で見つけよう—



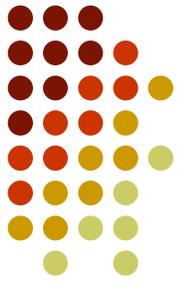
本研究は 日本外来小児科学研究基金の  
研究助成金を受けて、

近畿外来小児科学研究グループ (KAPSG: Kinki  
Ambulatory Pediatrics Study Group) において、

2004年1月～2006年12月までの調査期間で  
現在調査研究中である。

# ムンプス難聴調査協力者一覧

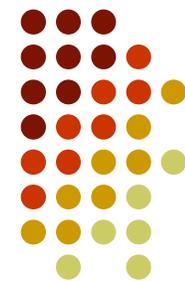
(2006.3月現在 40施設)



大谷和正	おおたにクリニック	櫻木健司	さくらぎ小児科	藤岡雅司	ふじおか小児科
岡藤輝夫	岡藤小児科	佐藤洋一	和歌山生協病院 小児科	藤田 位	藤田小児科
岡藤隆夫	岡藤小児科	清水 健	しみず小児科	船木秀則	西京都病院
岡本一徳	おかもと内科小児科診療所	高橋良明	たかはし小児科	松浦伸郎	松浦医院
小野恭一	おの医院	谷村 聡	たにむら小児科	松本秀憲	松本小児科
角田 修	かくたクリニック	中院秀和	京都南病院	丸山 繁	金沢精霊総合病院 小児科
柏井健作	かしい小児科	西垣正憲	にしがき小児クリニック	山入高志	山入こどもクリニック
片桐真二	かたぎり小児科	西田直樹	にしだ小児クリニック	山上文良	山上小児科クリニック
片山 啓	かたやまキッズクリニック	西村龍夫	にしむら小児科	渡部礼二	わたなべ小児科医院
賀屋 茂	賀屋小児科	根来博之	根来こどもクリニック		
瓦野昌治	かわらの小児科	野間大路	野間こどもクリニック		
木戸脇卓郎	きどわき医院	橋本裕美	橋本こどもクリニック		
絹巻 宏	絹巻小児科クリニック	花安 肇	花安小児科医院		
熊谷直樹	くまがいこどもクリニック	播磨良一	はりま小児科		
幸道直樹	こうどう小児科	日野利治	日野小児科内科医院		
西藤成雄	西藤こどもクリニック	福永泰広	ふくながこどもクリニック		

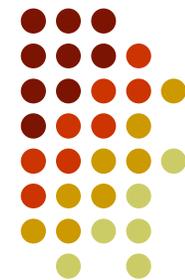


地図に示した以外に石川県2施設、埼玉県1施設



# 本調査研究の目的

1. 臨床的にムンプスと診断した患児の聴力予後について調査し、ムンプス難聴の発生頻度を検討する。
2. 前方視的調査を行なうことで、軽症あるいは自然に回復するような聴力障害に関しても把握する。
3. ムンプスの合併症として一側(まれに両側)聾があることを、小児科外来から社会に啓発する。



# 調査方法

- 調査協力医療機関で調査期間中にムンプスと臨床診断した20歳以下の症例すべてを対象とする。
- ムンプスの診断基準は感染症サーベイランスと同様に「症状や所見からムンプスが疑われ、
  - ①片側ないし両側の耳下腺またはその他の唾液腺の突然の腫脹と2日以上持続、
  - ②他に耳下腺腫脹の原因がないこと」をもって行なう。
- ムンプスIgMの値などでムンプスが否定された症例は除外する。



# 指擦り方による聴力検査

おたふく風邪難聴 調査票

お名前 \_\_\_\_\_ 男女 \_\_\_\_\_ 才 診察券 No. \_\_\_\_\_

連絡先電話番号 \_\_\_\_\_

このお子さんは[おたふくかぜワクチン]を受けたことがありますか? はい・いいえ  
今回まわりに[おたふくかぜ]にかかった人がありましたか? はい・知らない  
初めて耳の下が腫れた日は \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日



	月/日	朝		夕	
		左	右	左	右
1日目	/				
2日目	/				
3日目	/				
4日目	/				
5日目	/				
6日目	/				
7日目	/				
8日目	/				
9日目	/				
10日目	/				
11日目	/				
12日目	/				
13日目	/				
14日目	/				

受診した日を○で囲んでください

← 初めて腫れた日

一日2回、耳の近くで指こすりをして  
聞こえたら○印をつけて下さい。

初診時に指擦り方により聴力を確認。  
以後発症2週間後まで同法にて検査を続ける。

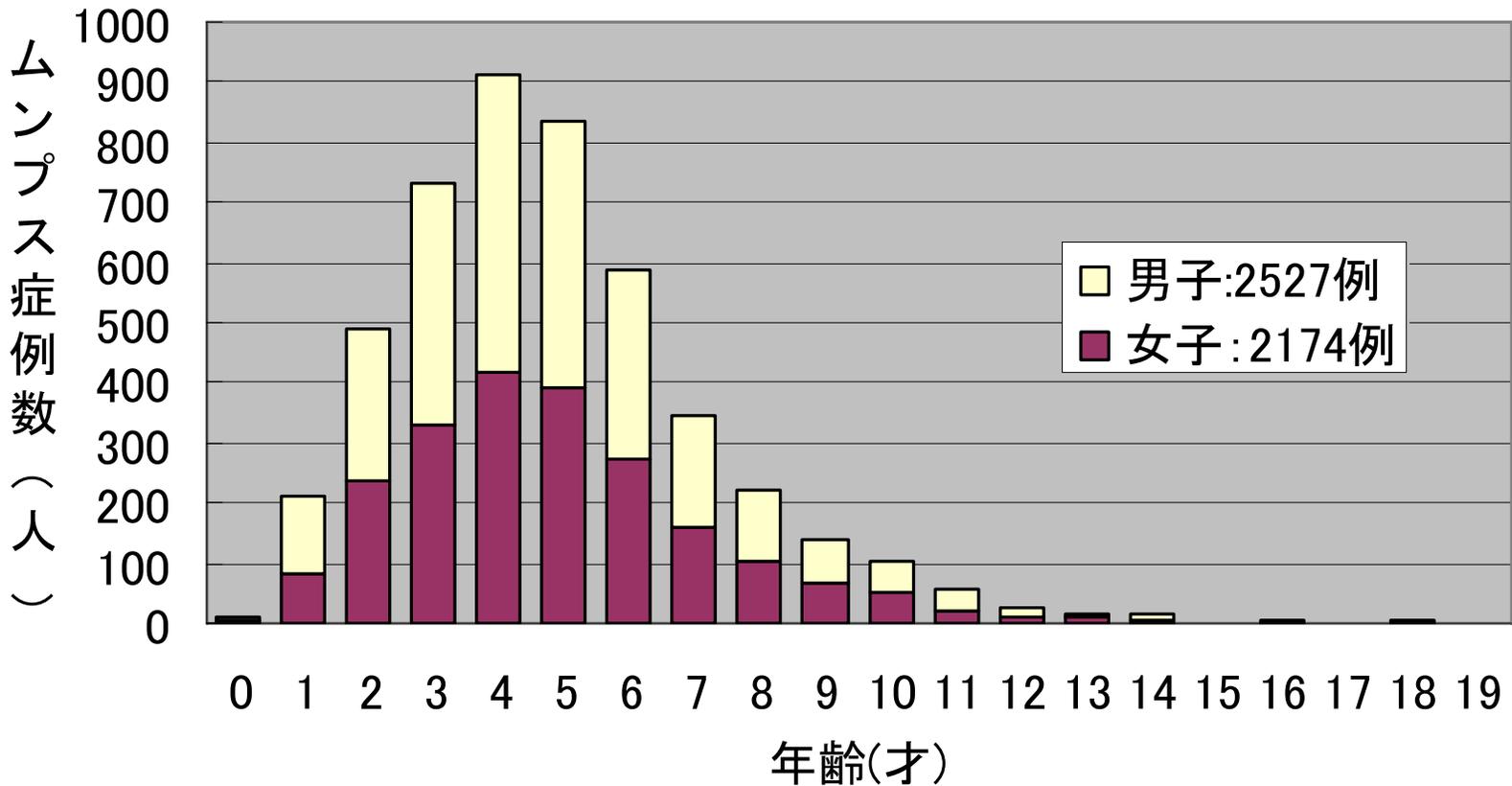
ご協力ありがとうございます。受診の際にはこの紙を忘れずに持ってきてください。  
もしも耳の聞こえが悪くなった時には、耳鼻科に紹介させていただきますので、  
すぐにご連絡をお願いします。

記入がすみましたら、必ず当院まで返却をお願いします。  
ご持参、郵送、あるいはFaxでも結構です



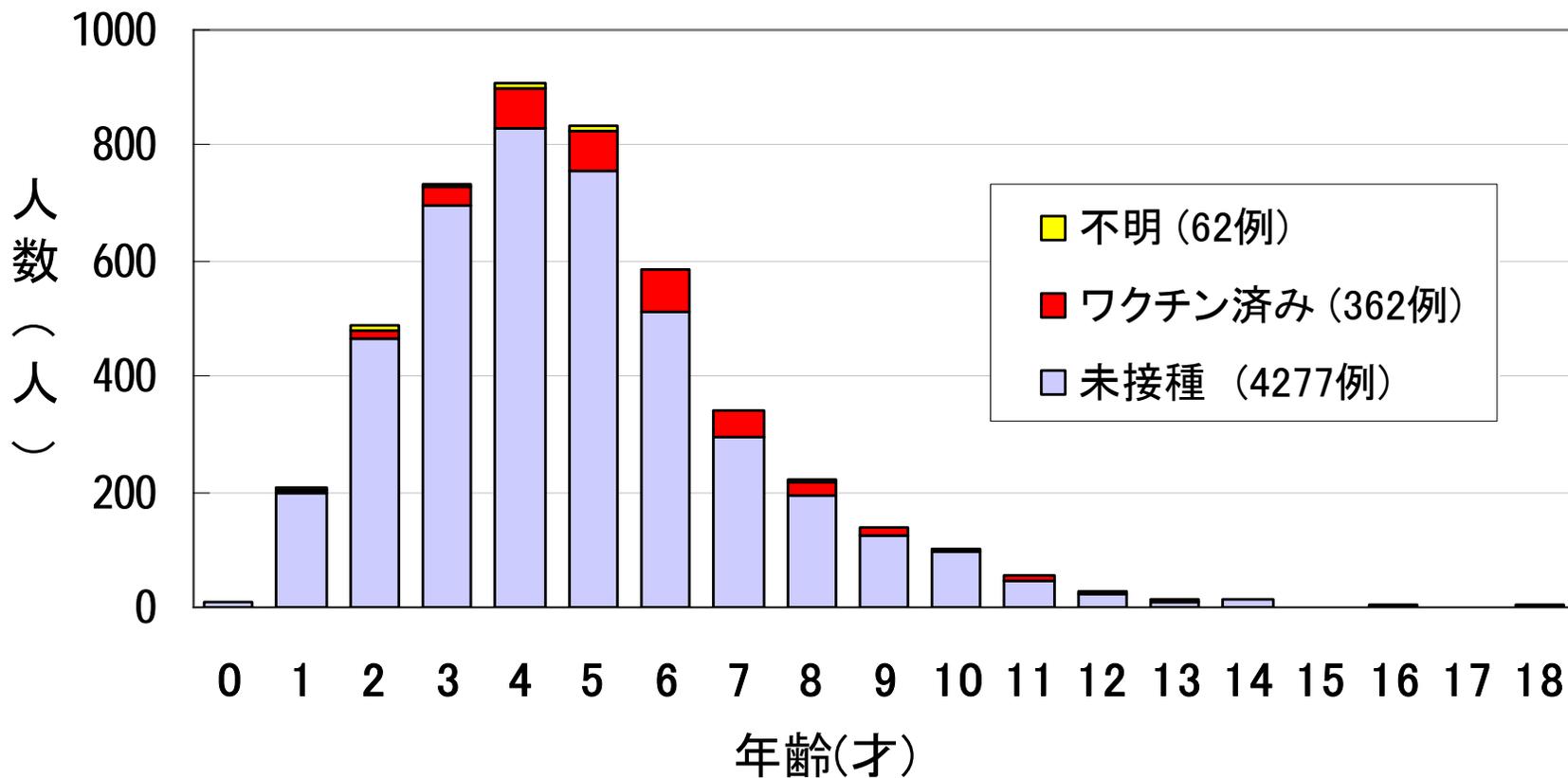
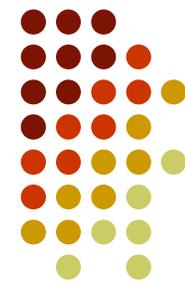
# ムンプス報告症例 年齢・性別分布

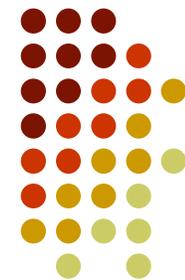
2004～2005年 4701例



# 年齢別ムンプスワクチンの既往

## 2004～2005年 4701例





# 中間結果(2005年末までの2年間)

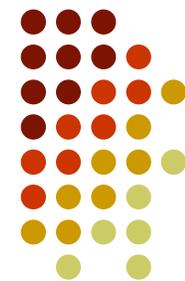
ムンプス症例の報告: **4701例**

難聴調査研究の参加者は うち **4502例(95.8%)**

不参加の理由は、低年齢、MRなどのため、保護者の  
聴力障害、不同意のためなど

現在までにムンプス難聴の発生は**3例**

頻度: **3例／4502例**



# ムンプス難聴発症例

	年齢	性別	難聴発見	難聴側	合併症
1	7歳1ヶ月	M	第3病日	左	なし
2	6歳7ヶ月	F	初診時	右	溶連菌感染
3	3歳8ヶ月	M	第5病日	左	めまい、嘔吐
参考例	6歳(調査参加者の姉)	F	第18病日	左	なし
参考例	30歳(調査参加者の母)	F	耳下腺腫脹2日前	右	耳鳴り



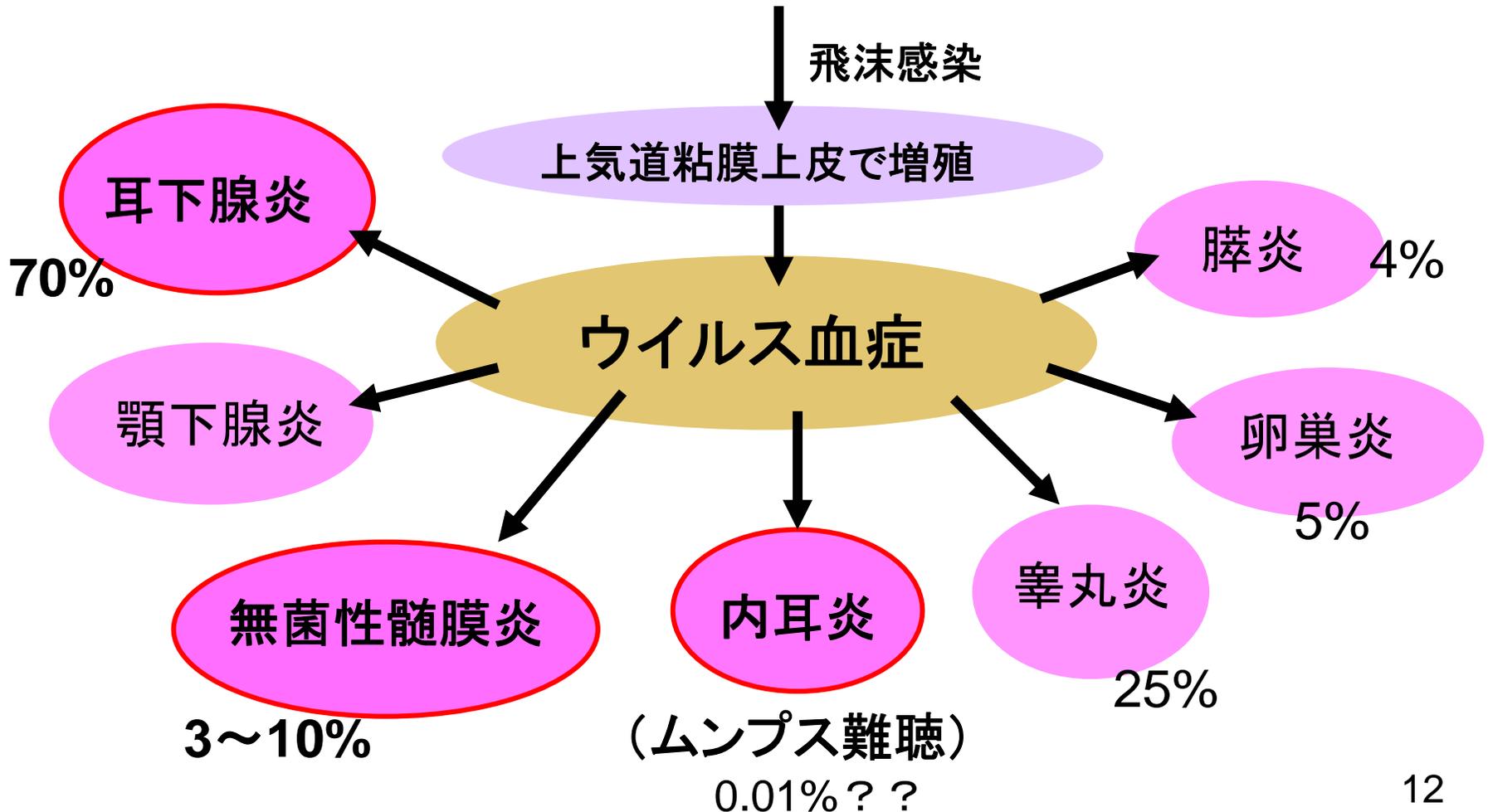
# ムンプス難聴の臨床的特徴

1. 一側性が多い (時に両側性)
2. 急性発症
3. 高度感音難聴、聾が多い
4. 改善しにくい

# ムンプスで耳下腺が腫れるとは限らない



唾液、咽頭分泌液中のムンプスウイルス





# ムンプス難聴の頻度が把握しにくい理由

- 正確な「母数＝ムンプス罹患者数」が得にくい
  - 不顕性感染が多い(30～40%)
  - 軽症であれば受診しない。
  - ムンプス以外にも耳下腺腫脹する疾患がある。
- 正確な「難聴発症者数」が得にくい
  - 片側のみの難聴のため小児では気付かれにくい。
  - 難聴発症後は耳鼻科を受診し、小児科で把握していない場合も多い。
  - 治療法がないためドクターショッピングが多い。

# ムンプス難聴発生率のこれまでの算出法



- 高頻度のもの(青柳1994)

把握できたムンプス難聴患者数

その(地域の)医療機関でムンプスと診断した受診患者数

= 5名 / 1,470名

≒ 300例に1例

- 低頻度のもの(西岡1985)

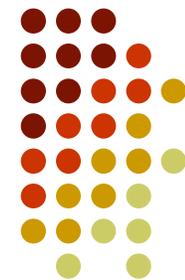
把握できたムンプス難聴患者数

その地域でムンプスに罹患した推定数

= 7名 / 全小学生の86%

= 7名 / 12万6千人

≒ 18,000例に1例



# 我々の頻度算出法

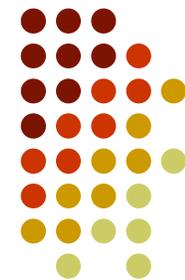
この中で発生したムンプス難聴患者

---

外来にてムンプスと診断し、調査参加の  
同意を得た患者

= 3例 / 4502例

このような実数による調査は、外来小児科医が  
グループで行なうことで、初めて可能。



## さらに このリサーチでは

- ムンプス難聴について、受診者に直接説明することにより社会に啓発することにつながる。
- リサーチの参加者は、リサーチの結果や参加者同士の意見交換によるムンプスの診断技術向上など、知識とスキルアップを得られる。
- リサーチを行っていることをHP上でアピールしたことにより、ムンプス難聴患者らと連絡、交流ができた。
- 啓発ポスター作成、マスコミに記事掲載など 実際にムンプス難聴の撲滅に向けた生きた活動となっている。



# まとめ

- 不顕性感染や、片側難聴などのため、ムンプス難聴の発生頻度の把握は困難である。
- 小児科と耳鼻科にまたがることから、小児科医のムンプス難聴に対する認識を一層低くしている。
- ムンプス難聴の発生頻度はこれまで考えられていたよりも高い。これを社会に啓発すべきである。
- さらにムンプス難聴の実態を解明して、我が国に於いても「おたふく風邪ワクチン」の定期接種による予防をはかるべきと考える。